

日本学術会議 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会主催
社会格差と健康に関する市民公開シンポジウム

健康の社会格差—今、多様な知を結集し、すべての人々に生きやすい社会を

日時：2010年7月30日（金曜日）午後1～5時

場所：日本学術会議講堂（〒106-0032 東京都港区六本木7丁目22-34 [www.scj.go.jp参照]

対象：一般市民

主催：日本学術会議基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会、日本学術会議社会学委員会「社会調査分科会」、社会学委員会・経済学委員会合同「包摂的社会政策に関する多角的検討分科会」、文部科学省科学研究費新学術領域研究「現代社会の階層化の機構理解と格差の制御：社会科学と健康科学の融合」（略称「社会階層と健康」）

企画の意図：健康の社会経済状態による格差への関心が高まっている。貧困層、失業者・非正規雇用者など社会制度の保護を受けにくい人々における健康や医療アクセスの問題に加え、子どもや高齢者の健康の社会格差の広がり、また経済不況下における障害者の健康と生活にも懸念が広がっている。このシンポジウムでは、保健医療分野のみならず、福祉、社会学などの視点からも総合的に健康の社会格差に関する現状と課題を明らかにし、さまざまな人々が共に、健康に生きることのできる社会を作るための方策について議論する。

座長：

川上憲人（日本学術会議連携会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同「パブリックヘルス科学分科会」委員、文部科学省科学研究費新学術領域研究「社会階層と健康」領域代表、東京大学大学院教授）

安村誠司（日本学術会議連携会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同「パブリックヘルス科学分科会」委員、福島県立医科大学教授）

演者およびテーマ（1人発表20分、質疑10分）：

1. 日本の健康格差・貧困問題：我が国における特徴と課題

岸 玲子（日本学術会議第二部会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同「パブリックヘルス科学分科会」委員長、北海道大学環境健康科学研究教育センターセンター長・特任教授）

2. 社会調査から見たわが国の社会格差と健康格差の問題

盛山和夫（日本学術会議連携会員、同社会学委員会「社会調査分科会」委員長、東京大学大学院教授）

3. 健康格差と日本の子どものヘルスプロモーション

實成文彦（日本学術会議連携会員、同健康・生活科学委員会「子どもの健康分科会」委員長、山陽学園大学副学長）

4. 高齢者の well-being（幸福・健康）における格差

近藤克則（日本福祉大学教授）

5. 拡大する健康格差に対する包括的対策プログラムの検討

高野健人（日本学術会議連携会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同「パブリックヘルス科学分科会」委員、健康都市と都市政策に関する WHO 研究協力センターおよび Alliance for Healthy Cities (AFH) 代表、東京医科歯科大学大学院教授）

6. 医療・健康の社会格差と医療政策の役割

二木 立（日本学術会議連携会員、同社会学委員会・経済学委員会合同「包摂的社会政策に関する多角的検討分科会」委員、日本福祉大学副学長・教授）

参加方法

参加費無料、事前申し込み不要です。

連絡先

パブリックヘルス科学分科会担当委員：川上憲人

東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

TEL: 03-5841-3364（教室受け付け） FAX: 03-5841-3392

メールアドレス kawakami@m.u-tokyo.ac.jp